

公開質問状

2022年（令和4年）5月17日

東京都教育長 浜佳葉子様
東京都教育委員会御中

「入試改革を考える会」代表
武蔵大学人文学部教授
大内裕和

「入試改革を考える会」は、「大学入学共通テスト」の「英語民間試験の活用」反対の活動をきっかけとして2019年秋に結成され、今日にいたるまで入学試験のあり方について、さまざまな声明や提言を行ってきました。都立高入試についても、オンライン署名「都立高校入試へのスピーキングテスト導入の中止を求めます！」の賛同団体として、署名活動に取り組んでいます。

このたびは2022年11月27日に実施予定の中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の内容と都立高入試への活用のあり方について、そして2022年4月30日（土）『東京新聞』朝刊に掲載された浜佳葉子・都教育長のインタビューに関して、質問をさせていただきたく思います。お忙しいなかとは存じますが、**2022年5月31日（火）まで**に下記の質問について文書でご回答いただければありがたいです。

質問1

「英語のスピーキングテストでは中学生にどんな力を身に付けてほしいか」という質問に対して、「しゃべろうと思えばしゃべれるのに周りに日本人がいるとしゃべりたくない人が多いと聞く。ある程度の知識は必要だが、文法通りでなくても通じた、という成功体験や実感を持ってほしい」（『東京新聞』2022年4月30日（土）朝刊）と浜・都教育長は発言されています。

この発言についての質問があります。「しゃべれるのにしゃべりたくない人が多い」の根拠を教えてください。また、「しゃべれるのにしゃべりたくない人が多い」というのは、現在の中学生にも言えることでしょうか。また、中学生は現場で「しゃべれるのにしゃべりたくない」のか「しゃべれないからしゃべっていない」のか、どちらの認識を持たれているのでしょうか。そしてその根拠は何でしょうか。なぜこのようなことを尋ねるのかということ、もしこの発言にそれ相応の根拠がなく、浜・都教育長の「個人の雑感」のようなものであるとし

たら、それを理由にスピーキングテスト導入の是非を判断されるのは問題があるからです。

質問 2

「ある程度の知識は必要だが、文法通りでなくても通じた、という成功体験や実感を持ってほしい」と浜・都教育長は発言されています。しかし、「中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) 令和3年度 確認プレテスト② 採点基準」によれば、「言語使用」の採点基準に「語彙や文構造及び文法の使い方に誤りが非常に多い」「語彙や文構造及び文法の使い方に誤りが多い」「語彙や文構造及び文法の使い方が概ね正確である」「語彙や文構造及び文法の使い方が正確であり、誤解を生むような文法の誤りや、コミュニケーションを阻害するような語彙の誤りもない」となっており、「文法の正確さ」がスピーキングテストの採点基準となっていることは明確です。「文法通り」に答えなければ、試験では良い点が取れない基準となっているのです。ですからこの試験では「文法通りでなくても通じた、という成功体験」は持てません。

また、タブレットへ解答を吹き込む今回のスピーキングテストでは、テストでは「文法通りでなくても通じた」かどうかはわかりません。スコアレポートで受験生に通知されるのは「総合得点」だけだからです。総合得点しか知らされませんから、自分の解答のどれが「通じた」あるいは「通じなかった」と推測することすらできません。

浜・都教育長の発言と「中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) 令和3年度 確認プレテスト② 採点基準」とは明確に矛盾しています。どうしてこのような矛盾が起きているのか、説明してください。

質問 3

「公平な採点ができるかどうか疑問の声がある」との質問に対して、「記述式試験や面接試験など点数化しにくい試験は他にもある。できる限り公平な採点方法を工夫して準備しているが、よく説明して、実績を積み重ねて信頼を得ていきたい(『東京新聞』2022年4月30日(土)朝刊)と浜・都教育長は発言されています。

これはスピーキングテストについての公平な採点の疑問に対して、記述式試験や面接試験を取り上げることで、「点数化しにくい」試験はすでに行われているのだから、「点数化しにくい」スピーキングテストを実施しても問題はないという理屈のように読めます。

しかし、記述式試験や面接試験は、学校単位で同一の採点者が採点を行っています。採点体制がブラックボックスの下で、約8万人の回答の採点が行われ

るスピーキングテストと「公平な採点」という点で同列に並べて比較することはできません。

また、できる限り公平な採点方法の「できる限り」という言葉からは、点数化しにくい試験においては完全に公平な採点は困難であり、公平さは「できる限り」という限定的なもので構わないという意味を読み取ることができます。

しかし、点数化のしやすさ・しにくさと公平さの度合いは連動するものではありませんし、そうさせてはなりません。入学試験における記述式試験、面接試験、スピーキングテストは、たとえ点数化はしにくくても「不公平な採点」は一切認められません。入学試験において、公平な採点は絶対の条件であるからです。

浜・都教育長の上記の発言は、入学試験の公平さについて受験生・保護者に不安を抱かせる重大な問題発言だと考えます。上記の発言の真意について、受験生・保護者・都民に納得のいく説明を求めます。

質問 4

フィリピンでの採点者がベネッセ関係者でないことの確認方法とその結果に関しての質問です。

都教育庁の担当者は、朝日新聞 EduA (2022 年 3 月 17 日)で記者の質問に対して「ESAT-J と GTEC は似ているけれども異なる」という解答をしています。

<https://www.asahi.com/edua/article/14573655>

ESAT-J と GTEC のテスト内容がどれだけ酷似していたとしても「協定等にて個人情報管理の徹底及び禁止行為を規定し、公平性・中立性を担保している」から問題がない、という認識のようですが、ここで1点疑問が残るのが採点者の素性です。というのも、ベネッセの関連企業はフィリピンで講師と契約し、オンライン英会話の事業を展開しているからです。

Online Speaking Training

<http://www.benesse-ost.com/>

進研ゼミ・中学講座「オンラインスピーキング」のレッスンを担当するのは、どこの国のかたですか？

https://faq.benesse.co.jp/faq/show/49671?back=front%2Fcategory%3Ashow&category_id=4802&page=1&site_domain=h-chu&sort=sort_access&sort_order=desc

都立高校でも、このオンライン英会話を「都の支援」で行っているところがあります。また、中学生が、中学生レベルの講座をオンラインで受講することも可能で、自治体によっては事業として予算を計上しているところもあるようです。もし、この英会話を指導している「講師」と、ESAT-J で採点者として契

約している「採点者」が同じであった場合に、「指導者」＝「採点者」となり、入試選抜の公平性・中立性は損なわれてしまいます。これは、割合・%が大きい小さいの問題ではなく、一人でも重なりがあった段階で由々しき問題となります。

この通年のオンライン英会話事業で契約している指導者と ESAT-J の採点者とが完全に異なっていて重なりは全くない、ということを確認しましたか。その方法とその結果に関して責任ある回答をお願いします。

また ESAT-J の採点専任スタッフは、2月から11月末まで何をしているのでしょうか。彼らが、ベネッセ関連の教育サービス（オンライン添削、オンライン教材の作成、オンラインテストの作成など）に関わっていないことをどのように確認しましたか。この点についても回答をお願いいたします。

質問 5

「ESAT-J」における「不受験者の扱い」についての質問です。東京都・教育庁文書「不受験者の扱い」には「学力検査の得点から仮の『ESAT-Jの結果』を算出し、総合得点に加算する」とあります。この点数の算出方法について計算式を示してください。

質問 6

中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）と民間試験 GTEC（ベネッセ）との類似性とそれが試験結果に与える影響についての質問です。中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）と民間試験 GTEC（ベネッセ）は、問題構成と問題傾向、採点基準ともに、とても良く似ています。東京都教育委員会側も「似ていたとしても違う」（「都立高入試スピーキングの不可解」朝日新聞 EduA、2022年3月17日）と発言していることから、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）と民間試験 GTEC（ベネッセ）が似ていることを認めています。

この中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）と類似した民間試験 GTEC（ベネッセ）が、東京都内の公立中学校において自治体単位で実施されているケースがあります。

5月17日（火）時点で私が得ている情報によれば、足立区、練馬区、目黒区、渋谷区、品川区、町田市、多摩市が実施。中央区、文京区、豊島区、千代田区、江戸川区、江東区、武蔵野市、小金井市、狛江市、板橋区、墨田区、八王子、国立市、調布市、北区、昭島市、小平市、清瀬市、稲城市、中野区、杉並区、世田谷区、西東京市、葛飾区、大田区、三鷹市、新宿区、東大和市、武蔵村山市、府中市、国分寺市が不実施となっています。

同一の学力であっても、形式の類似した試験を受けた経験のある生徒の方がそうでない生徒よりも良い点を取りやすいことは、これまで数多くのデータ・研究で確かめられています。民間試験 GTEC（ベネッセ）を公立中学校で実施している自治体の生徒が、民間試験 GTEC（ベネッセ）を公立中学校で実施していない自治体の生徒よりも、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）で有利となれば、入学試験の公平性・公正性を維持することはできません。

中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）と類似した民間試験 GTEC（ベネッセ）が、公立中学校で実施されている自治体と実施されていない自治体があることについてどう考えますか。また、公立中学校での民間試験 GTEC（ベネッセ）の実施・不実施が、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）での有利・不利にはつながらないという証拠あるいは根拠があれば説明してください。

質問 7

スピーキングテストの ESAT-J で算出された最高 20 点の得点は、調査書の「諸活動の記録」欄に記入されます。他にも在学時の全教科の成績などが同じように調査書点として換算されて記載されますが、スピーキングテストの成績が占める割合が余りにも大きく、入試全体のバランスを崩しています。

例えば都立高校入試の第一次募集（前期募集）の場合、学力検査が行われる 5 教科の調査書点は、通知表の 5 段階評価を 4.615 倍して換算されます。ですから英語で成績「5」を取ると、調査書点は約 23 点となります。

日頃、中学校で学んでいる英語全体についての最高評価が約 23 点であるのに対して、英語のなかの一技能であるスピーキングについて、特定の日に行われるテストの最高点が 20 点にもなるというのは、余りにも配点が大き過ぎます。普段の授業や定期テストを軽んじていると言われても仕方ないでしょう。しかも国語、数学、理科、社会の調査書点が最高約 23 点なのに、なぜ英語だけ調査書に記載された点数が全部で約 43 点にもなるのか。この点についてもこれまで十分な説明は行われていません。これでは「英語だけなぜ特別扱いするのか？」という疑問は解消しません。

スピーキングテストの ESAT-J の配点が 20 点であることの根拠を説明してください。また、国語、数学、理科、社会の調査書点が最高約 23 点であるのに対して、なぜ英語だけが調査書に記載された点数が全部で約 43 点にもなるのかについても説明してください。

質問 8

スピーキングテスト評価の点数化について疑問があります。中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）は 0 点～100 点で採点した後に、A～F の 6 段階で

評価します。「80点～100点=A(得点幅21点)」「65点～79点=B(同15点)」「50点～64点=C(同15点)」「35点～49点=D(同15点)」「1点～34点=E(同34点)」「0点=F」と不均等な得点域で分けたのち、A=20点、B=16点、C=12点、D=8点、E=4点、F=0点と4点刻みで配点されます。

この方法だと、例えば1点しかとれなかった人も、34点とれた人も同じくEに評価されて4点が配点されます。つまり最大33点違って同じ点数になってしまうのです。また1点はEで4点に換算され、0点はFで0点に換算されますから、1点でもとればテストの結果は4点差としてカウントされます。こうして算出されたESAT-Jの得点は、志望校へ送る「調査書」(=内申書)に記載されます。わずか1点の差が合格・不合格を分ける入試において、このような換算方法を採用することが適切であるかどうかは大いに疑問です。受験生・保護者の多くも、この換算の仕方には疑問を持つと予想されます。

上記のようなスピーキングテスト評価の点数化が一点刻みで合否が決定する入学試験で行われることが、なぜ問題ではないのかについて説明してください。

質問9

ESAT-Jでは、IRT処理をすることで単純な素点合計の100点満点ではなく、上限を100として換算したスコアを評価結果とするとしています。このIRT処理によって、異なる回や年度で受験した者同士の比較ができる「等化」が可能になる利点は理解できます。ただし、入試選抜のように同一問題で受験した者同士の比較に当たって、全体のスコアだけを通知する方法では、一人の受験者がどの設問でのどの項目に対する「反応/応答」が、どのような評価を受けたのかを、受験者が知ることが難しくなります。

例えば、設問Cの「4コマのイラストの描写説明」の評価方法を考えた時、4コマそれぞれのイラストの説明ができていないか否か、という「達成度」は0か1かの2段階。語彙・表現・文構造などの「言語使用の豊かさ」は0,1,2,3,4の5段階。個々の発音、言いよどみ、言い直し、流暢さ等の「音声」は0,1,2,3の4段階で評価されます。

以下の表は、東京都教育委員会が示したものではなく、仮定した受験(受検)生の評価例です。ESAT-JのIRT処理では段階の単純合計の得点が必ずしも同じスコアになるとは限りません。表で言えば、全員が段階合計は6になっていますが、その内訳は様々です。

・「タスクの達成度」と「言語使用」「音声」との重みづけがどうなっているのか。

また、「言語使用」と「音声」とのバランスでは、

・限られた語彙や文構造しか使えず、音声だけは英語の母語話者に近く、言い淀みのない反応と、語彙や構文は豊かで高度なものが使えているが、音声は英語母語話者からは遠く、言い淀み言い直しなどが見られる反応とでの優劣はどう扱われるのか。

などはブラックボックスとなっています。

サンプル	1st	2nd	3rd	4th	言語 使用	音声	段階 合計	スコア
A	0	0	0	0	3	3	6	a
B	1	0	1	0	2	2	6	b
C	0	1	0	1	2	2	6	c
D	1	0	1	1	1	2	6	d
E	1	1	1	1	1	1	6	e
F	1	0	1	0	3	1	6	f
G	1	0	1	0	1	3	6	g
H	1	1	0	0	2	2	6	h
I	1	0	1	0	2	2	6	i

この表で、受験生 A-I までのそれぞれが、スコアの a - i までを知らされない理由は何でしょうか。少なくともこの設問ごとのスコアが受験者本人に知らされないと、採点に対する疑義を問い合わせることさえできません。

東京都教育委員会の西貝課長は、テストのスコアレポートで受験者に示せる情報は、2021 年のプレテストで示された成績票以上のものにはならないと雑誌の取材で回答しています。

『アエラ』 2022 年 2 月 21 日号

<https://dot.asahi.com/aera/2022021500048.html?page=3>

その一方で、東京都教育委員会の担当者が「ESAT-J と似ているけれども違う」と言う（朝日新聞 EduA 2022 年 3 月 17 日

<https://www.asahi.com/edua/article/14573655>） GTEC が「高校生のための学びの基礎診断」というテスト事業の申請時、文科省に提出した資料には次のような項目があります。

<https://t.co/XHNEJH88D1>

(2021 年 6 月 30 日提出資料)

Ⅱ. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

・受検者には下記の項目をフィードバックとして提出します。

- ① 受検月
- ② 各技能 及び Total のスコア
- ③ 各技能 及び Total のグレード
- ④ 各技能 及び Total の校内平均スコア
- ⑤ 各技能 及び Total の校内順位
- ⑥ リーディングの WPM (words per minute)
- ⑦ 各技能 及び Total の Can Do メッセージ
- ⑧ 各技能 及び Total の成績推移
- ⑨ 問題 Part 別の全国平均正解率・校内平均正解率・受検者平均正解率
(リーディング・リスニング)
- ⑩ 小問単位での受検者の解答と正誤 (リーディング・リスニング)
- ⑪ 採点観点別の受検者の素点 (ライティング・スピーキング)
- ⑫ 学習アドバイス
- ⑬ 付属教材「スキルUPワーク」の取り組みページ
- ⑭ 受検者の書いた Writing 答案
- ⑮ Writing 答案に対する採点者からのメッセージ

・受検後、約1か月半で受検者に、技能ごとのスコアやグレード等が掲載されている、製本された紙媒体のスコアレポート(個人成績票)を学校経由でお届けします。

ここでの「採点観点別の素点」というのが、今回の質問で取り上げている「個々の設問ごとのスコア」に該当します。ESAT-J も GTEC も同じベネッセコーポレーションという企業に関わる「テスト」である以上、「学びの基礎診断」では小問単位での素点は明かせるけれど、ESAT-J では「各設問の観点別素点」を明かせないという理由が「企業秘密」とは言えないと思われます。

では、何故、基礎診断どころか、「入試選抜の可否を左右するテスト」での「個々の設問ごとの小問スコア」を受験生に明らかにしないのか。明確な回答をお願いします。

質問 10

2021 年度の「プレテスト」では、受験生は約 64000 人という「概数」しか報告されず、機器のトラブル、音声回収の不備、喪失などの「事故やミス」の報告がこれまでなされていません。大学入試でスピーキングテストを実施してきた専門家からは、たとえば「万全の対策をしても回答音声の回収トラブルは起こります。1 回の受験者が 800 人程度の我々のテストでも以下のとおり。私達は 1 問分でも回収できない場合は受験者に連絡して再テストを受けてもらっていますが、そのあたりの対応はどうなっているのでしょうか？」(羽藤由美・京都市芸繊維大学教授)との疑問も出されています。

この大学の場合には、2014 年度～2018 年度入試でほぼ毎年 1 名～3 名の回収音声のトラブルが発生しています。仮に 800 名で 1 名の回収音声のトラブルが起こるとすれば、約 8 万人の受験生であれば約 100 名の回収音声のトラブルが

起こることになります。都立高入試実施前にプレテストの「事故やミス」の報告とその対処法が明らかにされる必要があります。それがなされなければ、受験生は安心して受験をすることができません。

2021年度のプレテストにおける「事故やミス」のデータを出してください。また「事故やミス」が出た場合の対応方法を説明してください。

質問 11

令和4年3月30日指導部指導企画課国際教育推進担当が出した「東京都中学校英語スピーキングテスト事業 令和4年度 中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) 実施概要 (案)」には、実施方法「事業者が用意するタブレット端末等を用いて、解答音声を録音する方式で実施する。また、受験者を前半実施組と後半実施組の2組に分け、タブレット端末を移動させる形式で実施する」と書かれています。

この実施方法には大きな問題があります。同一問題の試験を異なる時間に実施すべきではありません。前半実施組と後半実施組に受験者を分けることは、問題漏洩のリスクを高めます。後半実施組の受験者はいつ召集でどこに待機させておくのか、前半実施組の回答が終わった後、どのような動線で受験者を退出させるのかなど、問題漏洩を防ぐための労力が多くなります。それは試験監督者の負担を増加させ、事故のリスクを高めます。また、万が一前半実施組と後半実施組で異なる問題を出題するようなことがあれば、試験の公平性・公正性は失われます。

また、タブレット端末の移動が、複数の生徒で同一のタブレット端末を「使い回す」ことにつながるのであれば、一つのタブレットの異なるストレージ領域に解答の音声データを保存することになりますから、たとえば、前半実施組でうまく動作していたデバイスが、後半実施組の解答に当たって不具合が生じた際に、前半実施組で記録したはずの音声データの保全で未回収が生じないか危惧が高まります。

「前半実施組」と「後半実施組」の試験問題は同一ですか、それとも異なった問題ですか。また、なぜ「前半実施組」と「後半実施組」の2組に分けて試験を実施するのかの理由を説明してください。また、どうしてタブレット端末を移動させる形式で実施するのかの理由を説明してください。

それから、このことによる問題漏洩や事故のリスクが高まることに対して、どのような対応策を実施するのかを具体的に説明してください。

質問 12

スコアレポートで受験生に通知されるのは「総合得点」のみです。2021年に

実施されたプレテストの設問は、「A（音読）」「B（Q&A）」「C（描写・説明）」「D（意見・コメント）」の4つのパートからなっていたようですが、「どのパートで何点とれたのか」という採点内容がありません。当然、総合得点のみの通知に疑問を抱く受験生、保護者、教員が多数出てくることが予想されます。

これに対して「得点开示は成績票がすべて。これ以上のものを渡すことは難しい」（東京都国際教育推進担当課長の西貝裕武氏の発言「8万人を『公平』はムリ」『AERA』2022年2月21日号より）とあるように、東京都側は開示請求には応じない姿勢です。しかし、学力検査は得点表と答案の写しまでが開示請求できるのに対して、スピーキングテストについては開示請求に全く応じないというのは、対応があまりにも違っていています。採点に対する信頼性を高め、受験生や保護者の理解を得るためにも、「どのパートで何点とれたのか」を通知し、開示請求にも応じるべきです。このままでは、スピーキングテストの採点について受験生、保護者、都民の信頼を得ることはできないでしょう。

スピーキングテストの結果について開示請求に応じない理由を説明してください。

質問 13

2021年に実施されたプレテストでは、ウェブ上で生徒情報を登録する際、生徒の顔写真をアップロードすることを求められました。その時は任意でしたが、2022年度に実施される本試験からは都立高校志望予定者全員の名前、顔写真、「ESAT-J」の結果がベネッセに渡ることになります。

ベネッセでは2014年に業務委託先の従業員が約3500万件の顧客情報を持ち出し、名簿業者に売却していた事件が発覚しました。過去にこうした事件が起きてしまっている以上、今後入手する大量の個人情報を安全に管理できるという根拠を明確に示す必要がありますが、そうした説明はこれまでなされていません。ベネッセがスピーキングテストの実施によって今後入手する大量の個人情報を安全に管理できるという根拠を説明してください。

質問 14

ベネッセは英語教育に関する教材を数多く出版し、通信教材を学校や塾に販売したり、その教材の有料オプションとしてオンラインでスピーキングの授業を実施しています。そうした一私企業が公立高校入試に関わることによって、自社の利益誘導につなげることがあってはなりません。都立高入試に関わることがベネッセへの利益誘導につながらない、または利益相反には当たらないとの証拠は、現在のところ明確には示されていません。

ベネッセが都立高入試へのスピーキングテストに関わるのが、ベネッセへ

の利益誘導につながらない、または利益相反には当たらないという根拠を説明してください。

質問 15

2022年11月27日に実施予定の中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の内容と都立高入試への活用のあり方について、東京都内の中学校3年生、保護者への情報提供に関する質問です。浜・都教育長は「できる限り公平な採点方法を工夫して準備しているが、よく説明して、実績を積み重ねて信頼を得ていきたい」（2022年4月30日『東京新聞』朝刊）と発言されています。

2022年1月以降、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の内容と都立高入試への活用のあり方について、私は数多くの学習会を行ってきました。学習会を積み重ねてきて分かったことは、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の内容と都立高入試への活用のあり方について、中学生の子どもをもつ保護者たちに、ほとんど知られていないという事実です。

中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の内容と都立高入試への活用のあり方について、2022年5月現在、中学校3年生や保護者への情報提供についてこれまでどのようなことを行ってきたのか説明してください。また、これまでの情報提供のあり方が十分であったと考えているかどうか、教えてください。

それから、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の内容と都立高入試への活用のあり方について、（ESAT-J）の個人申込開始（2022年7月7日）や試験実施（2022年11月27日）までの期間、中学校3年生や保護者への情報提供を、具体的にどのようなかたちで実施する予定かを説明してください。